

高岡町埋蔵文化財調査報告書第5集

高岡町内遺跡
遺跡発掘事前総合調査報告書

1994.3

宮崎県高岡町教育委員会

高岡町埋蔵文化財調査報告書第5集

高岡町内遺跡
遺跡発掘事前総合調査報告書

1994.3

宮崎県高岡町教育委員会

序 文

高岡町は、宮崎市の近郊に位置し、大規模な諸開発の増加が予想されます。高岡町教育委員会では、これらに対応するため、調査体制を整えるとともに、1991・1992年度に実施した町内遺跡詳細分布調査の結果とともに、その後、開発に伴う遺跡の確認を目的とした遺跡発掘事前総合調査を実施しております。

本書は、1993年度に実施したそれらの調査の報告であります。この調査が、開発と埋蔵文化財保存とが共存できるきっかけとなることを希望します。

最後に、調査に協力頂いた諸関係機関や地権者の方々に深く感謝申し上げます。

1994年3月

高岡町教育委員会

教育長 篠原和民

例　　言

1. 本書は、高岡町教育委員会が1993年度に文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡発掘事前総合調査の報告書である。
2. 調査は下記の体制でおこなった。

調査主体	高岡町教育委員会
教　育　長	篠　原　和　民
社会教育課長	岩　崎　健　一
社会教育係長	本　田　正　雄
調査担当	社会教育係主事　　島　田　正　浩
庶務担当	社会教育係主事　　島　田　正　浩
調査指導	県文化課主査　　菅　付　和　樹

3. 調査ならびに報告書作成にあたっては、山本賢一朗（同様）
（以上同様埋蔵文化財調査室）の協力を得た。
4. 本書の編集は島田がおこなった。



図版1　調査風景

目 次

Iはじめに	4
1 高岡町の自然と歴史	4
2 調査の目的	6
a 高岡町内の開発状況と体制	6
b 今年度の対応について	7
II調査	
1 喜呂女木遺跡 (319)	9
2 天ヶ城跡 (407)	10
3 丹後堀遺跡 (121)	11
4 久木野遺跡 (614)	13
5 穂佐城跡 (311)	16
6 高岡麓遺跡 (406)	19

挿図目次

第1図 高岡町遺跡分布図	5
第2図 喜呂女木遺跡周辺図及びトレンチ位置図	9
第3図 天ヶ城跡周辺図	10
第4図 天ヶ城跡トレンチ位置図	11
第5図 丹後堀遺跡周辺図	11
第6図 丹後堀遺跡トレンチ配置図	12
第7図 久木野遺跡周辺図	13
第8図 久木野遺跡調査位置図	14
第9図 穂佐城跡周辺図	16
第10図 穂佐城トレンチ配置図	17~18
第11図 高岡麓遺跡調査位置図	19

図版目次

図版1 調査風景	2
図版2 天ヶ城跡トレンチ掘削	10
図版3 丹後堀遺跡トレンチ掘削	12
図版4 久木野遺跡第2トレンチ	15
図版5 久木野遺跡	15
図版6 穂佐城跡第14トレンチ（南から）	16
図版7 穂佐城跡第16トレンチ（東から）	16
図版8 穂佐城跡（南から）	17~18
図版9 穂佐城跡（西から）	17~18
図版10 穂佐城跡（東から）	17~18
図版11 高岡麓から天ヶ城跡をみる	20
図版12 高岡麓遺跡重機掘削後	20
図版13 高岡麓遺跡第4トレンチ遺構検出	20
図版14 高岡麓遺跡第5トレンチ	20

I はじめに

1 高岡町の自然と歴史

高岡町は、年間を通じて温暖であり、大淀川が町中央を東流することから、1日の気温差がさほどないところである。大淀川は、町内では浦之名川をはじめ大小の支流をもち、谷や小丘陵を形成している。これらの小丘陵は、そのほとんどに2次アカホヤの堆積がみられ（一里山地区を除く）、その下に幾層かをはさみシラス層となる。

高岡町のほとんどの遺跡はそれらの丘陵に位置しており、旧石器時代から近世に至るまでの遺跡が豊富である。

旧石器時代では、表採資料として浦之名一里山地区の剥片尖頭器がある。また、今年度調査された向屋敷遺跡は、集石遺構と共に剥片等が出土しているが旧石器時代の可能性を含んでいる。

縄文時代では、早期と後期の遺跡が多く知られている。早期では、橋山第1遺跡・天ヶ城跡・宗栄司遺跡・橋上遺跡（今年度調査）の調査があり、集石遺構と共に押型文土器等が出土している。また、天ヶ城跡や橋山第1遺跡C地区（今年度調査）では、環状石斧が出土している。後期では、山子遺跡が以前から知られており、浦之名川上流に位置する赤木遺跡と同様に貝殻条痕文土器が表採される。調査では、学頭遺跡や城ヶ峰遺跡で確認されている。また、数的には少ないが、前期の遺跡として飛渡遺跡（東高岡地区）があり轟B式と思われる土器片が表採されている。

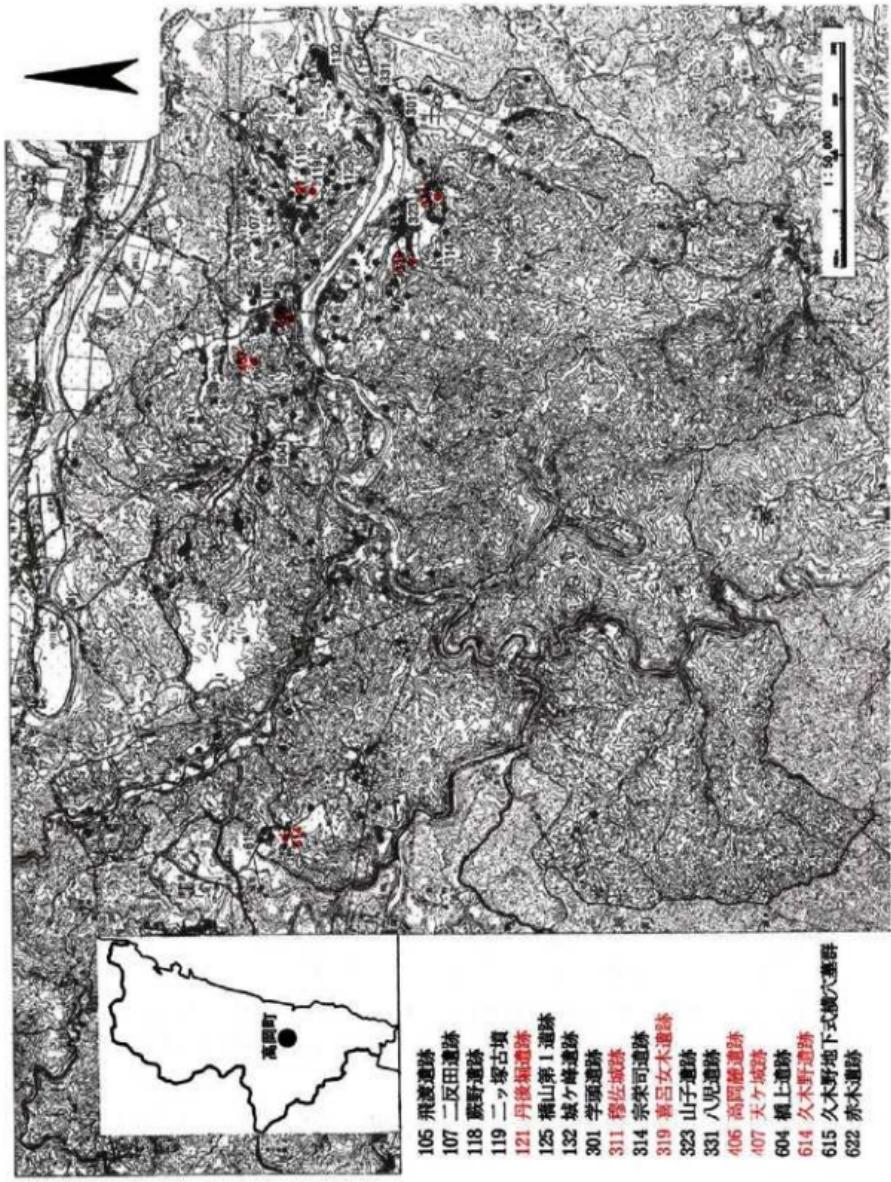
弥生時代では、学頭遺跡があげられる。学頭遺跡は複合遺跡であり、この時代は中期後半から終末までが確認されている。河川に挟まれた舌状の微高地に位置する生活遺跡である。また、城ヶ峰遺跡では、後期の遺物が出土している。

古墳時代では、東高岡地区と浦之名一里山地区の丘陵を中心として遺跡が広がる。特に久木野地下式横穴墓群で3基の調査が行われており、1984年の調査では鉄斧と玉類が出土し6世紀前半とされている。東高岡地区の古墳は未調査であるが、その中のひとつ二ツ塚古墳周辺で古墳時代中期の壺と鉄製品（鉄斧など）が耕作中に発見されている。また、学頭遺跡では、初頭～前期にかけての遺跡が出土し弥生時代から引き続き集落が営まれている。それに隣接した八兒遺跡でも住居址が検出されている。

古代は、文献によると高岡周辺は「穆佐郷」と言っていた。古代になると、宗栄司遺跡・蕨野遺跡・二反田遺跡があり前者2遺跡で調査が行われている。特に蕨野遺跡では、土師器生産に伴う焼成土壙が検出されている。

中世では、12世紀に「島津庄穆佐院」といわれ、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の興亡の歴史の中に入っていく。この時代の代表的なものは山城である。南北朝期は、穆佐城が日向の

第1図 高岡町遺跡分布図



中心となり足利氏の九州における勢力拡大の拠点となった。それ以後、小規模な山城が点在したと考えられ、現在10箇所以上（文献等では18箇所）を確認している。穆佐城は、三段院高城・新納院高城とともに日向三高城と称されているところである。繩張り調査の成果として、南九州特有の特徴を持つとともに、機能分化をも持たせた山城として評価されている。その後、穆佐城は、島津久豊（8代）・忠国（9代）の居城、伊東氏48城のひとつとなるなど両氏の勢力争いの表舞台にあった。また、このころには、山城などの城郭遺跡以外でも町内全体に数多くの遺跡が広がる。

この時期までの中心地は穆佐城周辺だったのに対して、近世になると天ヶ城周辺に一変する。薩摩藩は、天ヶ城（高岡郷）と穆佐城（穆佐郷）の領地に多くの郷士を居住させた。そして、綾・倉岡とともに閑外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として薩摩藩の東側の防衛の要として発展する。高岡麓遺跡では、計画的な街路設計がなされ郷土屋敷群と町家群に分割されている。そして、昨年度の町家の調査で素堀の井戸や土壙等を検出し、大火跡と思われる焼土層を確認している。近世の遺跡は、麓を含めて現在の居住地と重なる場合が多く、表採遺物や石造の墓標の存在からも参考となる。

2 調査の目的

近年、相次ぐ開発の増加により、埋蔵文化財の取り扱いについて問題が表面化してきつつある。

高岡町では、1992年3月に「高岡町遺跡詳細分布調査報告書」を刊行し、町内の遺跡の周知徹底を図ってきた。そして、それに基づき、周知遺跡内またはその周辺において開発を行う場合またはその予定がある場合にトレンチ法による試掘調査を実施し、遺跡の性格や保存状態等を確認することによって、文化財保護の立場から開発との調整に資することを目的としている。

a 高岡町の開発状況と体制

高岡町は、宮崎市の近郊に位置しているにも関わらず大規模開発というものに縁遠いところである。地理的に好条件であるわりには、宮崎市の南北に位置する佐土原町や清武町のようにベットタウン化されることはない。そのような開発の遅れは、法的規制によるところが大きく、それがかえって現況を破壊されることなく、埋蔵文化財にいたっては残存している遺跡が多い。しかしながら開発がなかったわけではなく、確実に遺跡は破壊されてきたのである。まず戦後的小規模な圃場整備や1965年頃始まったパイルロット事業、そして、国道10号線バイパスを始め各種の舗装道路、官公庁の庁舎建設、民間では、小規模な宅地造成や個人の農地造成、農作物の栽培での蜜柑やごぼうなどの深耕を必要とするもの。また、もっとも最悪な例として、近世の中心遺跡の場所に教育委員会施設であるR・C構造の校舎建設がある。

これらの開発は、埋蔵文化財に対する保存の意識はまったくなく、あくまでも生活利益先行

の結果である。これは、文化財保護法を施行させるための体制がなかったため、宮崎県内でそのような体制づくりがなされたのがひと昔前と考えれば、市町村レベルにおいての意識の低さは当然であろう。高岡町では、大規模開発の誘致とともに埋蔵文化財の体制づくりが求められた。これは、開発を是とする考えに基づく記録保存のための処置であり、埋蔵文化財保護とは根本的に異なることは言うまでもない。

さて、最近の町内の傾向は、まず、大規模開発は、ゴルフ場や工業団地造成などが計画されたが、民間開発のほとんどは法的規制や景気の低迷などで計画の見直しを余儀なくされている。小規模開発については、公共事業を中心に毎年コンスタントに事業が計画されている。個人住宅に関しては、表-1のとおりである。街路事業の影響による住宅の建て替えがめだつが多い。

これらの開発に対しては、可能な限りの試掘と立ち会い調査で対応し、破壊される遺跡については本調査を実施している。しかし、これも事前に計画が確認できるものについてのみの対応であり開発のすべてではない。現在のところ特に小規模な民間開発においては把握するのは困難である。教育委員会で把握できるものは、開発申請や建築の確認申請、そして農地転用許可によるものであり、それ以外の開発は発見時での対応となり工事の中断・工期の延長を引き起こしている。公共事業においても計画段階で協議を求めてくるのは希である。発掘調査が事業者側に課せられた義務であることを周知徹底させることと、開発に対する埋蔵文化財独自のチェック機構を早急に確立させることが必要である。また、仮にこのように開発の把握が可能になった場合、今の教育委員会の体制では対応することは困難であり、同時に受け皿の強化を図らなければならない。

表1 高岡町内建造物建設件数

		平成3年度	平成4年度	平成5年度	合計
構 造	遺跡内件数	36	34	30	100
	木造総数	62	57	69	188
造	遺跡内件数	8	9	8	25
	R C 総数	22	13	13	48
合 計		44	43	38	125
		84	70	82	236

最後に今年度の公共事業についてみてみたい。表-2は町主体で行っている開発事業の発注件数である。この表は災害関連事業を除いており、これを含めると3倍以上になる。単独事業は事業費が少額で、地下遺構に影響を与える内容の事業のほとんどは補助事業である。補助事業においては、国・県レベルでの「協議の有無について」の再チェックを強化することを望む。

b 今年度の対応について

今年度は、公共事業や民間開発に対応するため、周知遺跡内の開発計画のなかで9件について試掘調査を実施し、内6件のみ高岡町で対応した。また、本調査については、4件中3件

について高岡町が対応した。これは、文化財保護法により埋蔵文化財調査が義務付けられているための処置である。

表-2 平成5年度町主体開発事業発注件数

	町単独事業	補助事業等	合計
町道・施設 ・都市計画関連	47	51	98
農業関連	1	15	16
水道関連	17	0	17
合計	65	66	131

*発掘でない事業も含まれている。

表-3 高岡町内今年度調査一覧

	遺跡名	主体	原因	期間	成果	備考
本 調 査	学頭遺跡	県教委	県道改良	6/22~9/18 10/28~継続中	縄文後期~近世	
	橋山遺跡	町教委	施設建設	5/8~5/28	縄文早期遺物	
	向屋敷遺跡	町教委	農道新設	7/26~9/25	集石遺構	
	橋上遺跡	町教委	農道新設	1/5~1/26	集石遺構 縄文早期遺物	
試 掘 調 査	向屋敷遺跡	県教委	農道新設	5/17~5/20	集石遺構	今年度 本調査実施
	橋上遺跡	県教委	農道新設	5/17~5/20	縄文早期遺物	
	久木野遺跡	県教委	農道新設	8/19	遺構無	
	喜呂女木遺跡	町教委	町道改良	7/12~7/13	遺構無	
査	丹後堀遺跡	町教委	土砂採取	8/4~8/9	遺構無	
	久木野遺跡	町教委	農道新設	11/25~11/29	集石遺構 古墳時代遺物	来年度調査
	高岡麓遺跡	町教委	施設建設	1/24~1/28	近世遺物、pit群	
	穆佐城跡	町教委	史跡整備	1/20~2/3		

II 調査

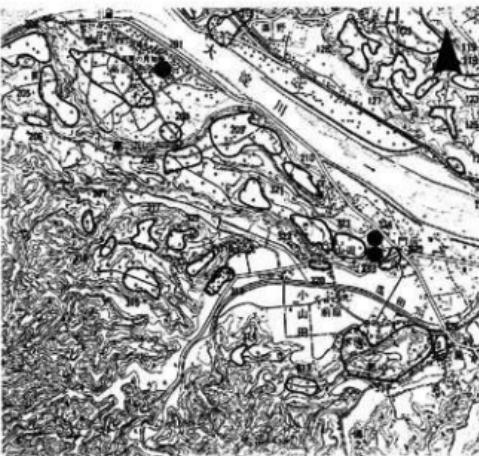
1 喜呂女木遺跡 (319)

この遺跡は、瓜田川中流域西側の低地に広がる古代の遺跡である。現況は水田となっており、未調査であるが、多くの土師器が畦や水路から採取されている。この遺跡の周辺にある遺跡は、ほとんどが丘陵に位置しており、同時期の遺跡としては宗栄司遺跡 (314) がある。

調査

この調査は、町道改良を原因とした遺構の有無を目的に確認調査を実施した。

教育委員会は、町建設課と協議を



第2図 喜呂女木遺跡周辺図及びトレンチ位置図

行い、今年度事業で遺跡内にかかる町道改良1路線について、試掘を行うこととした。事業範囲は遺跡包蔵地の端部にあたり、北側斜面際貧せた平坦地を削平し拡幅する工法をとることから、その削平部分に対して1m×15mのトレンチを設定した。

表土下、約50cmの埋土（近年のもの）を掘削し、地山と思えるところを検出した遺物として摺鉢（明治・大正）が出土したが遺構は検出されなかった。遺構の場所は、水田を中心としたところと考えてよからう。

2 天ヶ城跡（407）

この遺跡は、高岡を代表する中世山城跡である。この山城の各曲輪のほとんどは造成により破壊され、主格・三の丸・天ヶ城がかろうじて残っている。1991年6月から1992年9月までの間、主格部分に資料館を建設するための発掘調査で、堀立柱建物や断面V字状の堀、そして縄文早期の遺構・遺物が検出された。この遺跡の周辺は中近世の遺跡が多く、特に山城が四方に分布している。

調査

この調査は、施設建設を原因とし遺構の保存状況を確認することを目的とした。

高岡町は、観光開発による飲食施設建設（木造）を天ヶ城多目的広場の一角に計画した。教育委員会は、企画調整課と建設課との間で協議を行い、すでに破壊されている可能性もあったが、主格の調査で確認された堀の延長部分にあたることから試掘することとなった。建物の浄化槽設置予定地に1m×9



第3図 天ヶ城跡周辺図



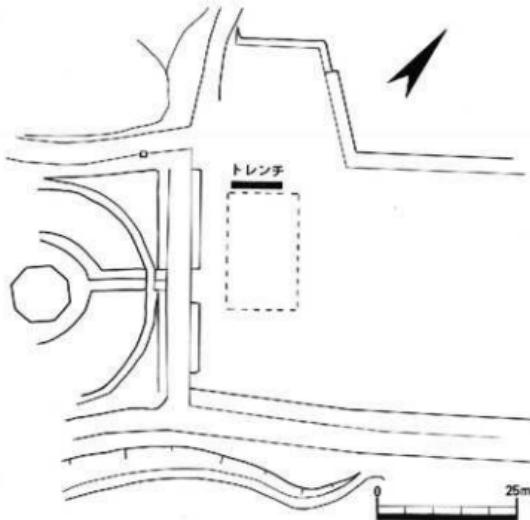
図版2 天ヶ城跡トレンチ掘削

mのトレントを設定し、建物部分については、基礎工事においてトレント状に掘削するためその時に立ち会うこととした。

トレントは堀の推定深度よりも深く掘削したが、擾乱後整地したための埋土であり、堀の痕跡は確認されなかった。

3 丹後堀遺跡（121）

丹後堀遺跡は、花見の丘陵に位置し、この遺跡周辺には、縄文早期の橋山第1遺跡（125）をは



第4図 天ヶ城跡トレント位置図

じめ、県指定二ッ塚古墳（119）や五ッ塚古墳（111）や中山遺跡（104）の古墳時代の遺跡がある。この遺跡は、弥生時代の包蔵地であり、遺物の散布が遺跡内でみることが出来るが、1985年、ごぼう作付による深耕による落ち込みのため、地下式横穴墓の可能性があるとして調査が実施されている。

調査

この調査は、土砂採取を原因とし遺構の有無を確認することを目的とした。

1993年7月、（有）■■■から土砂採取を目的とした埋蔵文化財発掘の届出がされた。これにより教育委員会は、（有）友和産業との間で協議を行い、試掘調査を実施した。トレントは、3m×3m（場所によっては2m×2m）を8箇所設定した。特にこの遺跡内で弥生式土器が多く表採できる場所があり、



第5図 丹後堀遺跡周辺図

そこに一番近いところに半分の4箇所を設定した。
基本層序は、表土下すぐに2次アカホヤが露呈する。

2次アカホヤの厚さは平均して40cmを計り、その下
カシワバンが薄く堆積する。そしてその下に厚さ15
cmの黒色土、厚さ30cmのぶい黄橙色と続く。表土
は、西側で深く小規模な造成を思わせる。

第2トレンチから弥生式土器片(ツボ)1点が出
土したが、その他のトレンチからの遺構遺物の検出
はなかった。



図版3 丹後堀遺跡トレンチ掘削



第6図 丹後堀遺跡トレンチ配置図

4 久木野遺跡

久木野遺跡が立地する一里山の台地は、そのすべてに遺跡が存在する。

しかしながら、開拓という名のもとに大小の造成が行われてきた。現在、台地一帯で表探査物を見るが、すでに破壊され存在しない遺跡も多いと思われる。この遺跡は北側で古墳時代の遺物、そして南側では縄文時代後期から晩期にかけての遺物が表探査される。今までに3基を調査している久木野地下式横穴墓群は、この遺跡の一角にある。

調査

この調査は農道新設を原因とし遺構の有無の確認を目的とした。

県文化課と県中部農林振興局は、今年度事業について協議を行った。そして、遺跡に掛かる事業のうち、この遺跡については、町教育委員会と町農業振興課を入れた現地踏査の後、町教育委員会が試掘調査を行うこととなった。

トレントの設定は路線内13箇所とし、すでに土手等に焼石が露呈しているところは調査地から省いた。

層序は、調査地区北側では、アカホヤ層下、黒色土と灰白色土混じりのハード層が堆積し、その下灰白色となる。調査地区南側では、表土下、黒色土層、アカホヤ層、カシワバン層、黒色ハード層、にぶい褐色土層と続く。

第1トレント：調査地区北側に設定した。層序は第3トレントまで上記の様相と同じである。アカホヤ層の堆積（残存部分）は薄く、深さ約80cmで灰白色土層に達する。遺構の検出はないが、表土より縄文土器片と古墳時代の内面削離をもつ表、そして、灰白色土層面から磨石が出土地した。

第2トレント：第1トレントの西側に設定した。トレント内東側の灰白色土層面で集石遺構



第7図 久木野遺跡周辺図



第8図 久木野遺跡調査位置図

を検出した。集石遺構は拳大ほど
の礫からなり、トレンチの外に広
がりを見せる。遺物は、遺構検出
面から黒曜石剝片（姫島産）や繩
文土器片、が出土した。

第9トレンチ：この近辺では農
作物により1箇所しか設定できな
かった。層序は調査区南側と同様
である。焼石が出土したのみで遺
構等の検出はなかった。また、こ
の畑一帯でトレーチャーによる深
耕のため焼石の散布がみられた。

第11トレンチ：第11トレンチか
ら13トレンチまでは、遺跡の区域
からはずれていた場所であるが、
丘陵の尾根上に位置することから
調査地とした。しかし、造成によ
る削平を受けていた。遺物の出土
はない。

5 穂佐城跡

穆佐城は、南北朝期からの中世
山城のひとつである。面積10ha以
上、曲輪にして大小合わせて30箇所以上であり、その曲輪群を大規模な堀で4つに分割してい
る。この遺跡の周辺には、麓が形成され今でもその名残を見せる。

調査

調査は、史跡整備を原因とし遺構の保存状況を確認することを目的とした。

このような目的で行う調査は、過去3回今年で4年目を迎える。今年度はA地区北側の帶曲
輪を中心とトレンチを5箇所設定した。トレンチの設定は、樹木等の関係で任意の位置・規模
である。また、昨年度作成した地形測量図の修正も合わせて行った。

第14トレンチ：大規模な堀の入り口の状態確認を行った。表土40cm剥いだところで地山がで
る、北側から東側にかけて1段（段差20cm）落ちるが、床面は平坦である。遺物は、土師器
(糸切り)がある。



図版4 久木野遺跡第2トレンチ



図版5 久木野遺跡

第15トレンチ：帶曲輪に直交するように $2m \times 16m$ のトレンチを設定した。表土を剥いだところで、トレンチ中央部で東西方向に延びる幅4mの溝状の落ち込みを検出した。さらに1層下げるときその面から径40cmのピットが検出された。遺物は、土師器・須恵質甕・石製品がある。



第9図 穂佐城跡周辺図

第16トレンチ：この曲輪内の遺構を確認するため、東西方向に $1m \times 18m$ のトレンチを設定した。表土を40cm弱掘り下げるとき地山がてで遺構が確認できる。ピット（径30cm弱）や土壤状の遺構のほか、トレンチ西端で埋土暗黄褐色の落ち込みが検出された。遺物は、土師器が出土した。

第17トレンチ：第16トレンチの南側に $1m \times 14m$ のトレンチを設定した。表土40cm程で16トレンチと同じく地山を確認する。トレンチ西側でピット、中央部に幅約6m・深さ約2mの落ち込みを検出した。落ち込みは断面杯型となり南北に広がる。西側壁面は段を造り、その床面で硬化面を確認する。硬化面は落ち込み床面でも一部確認された。遺物は、青磁碗（龍泉窯系）・染付、落ち込み床面からは、須恵質土器が出土した。

第18トレンチ： $1m \times 5m$ のトレンチを設定した。表土下30cmで地山を検出する。トレンチ北側で硬化面を確認する。



図版6 穂佐城跡第14トレンチ（南から） 図版7 穂佐城跡第16トレンチ（東から）



図版8 穂佐城跡（南から）



図版9 穂佐城跡（西から）



図版10 穂佐城跡（東から）



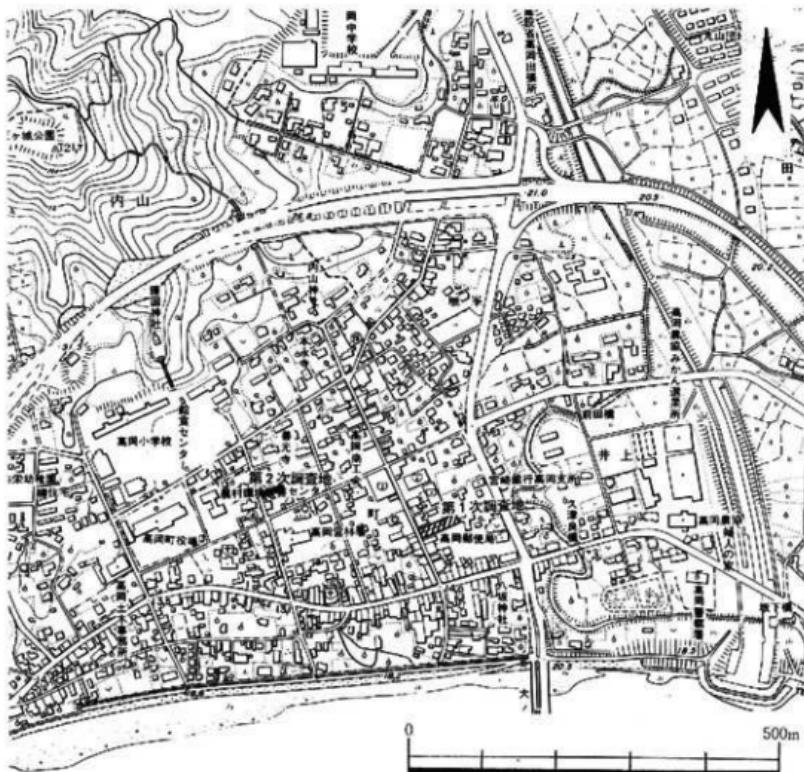
第10図 穂佐城トレント配置図

6 高岡麓遺跡第2地点

高岡麓遺跡は、天ヶ城に対する麓ということで近世を中心とする遺跡である。1991・2年の鹿児島大学による調査により屋敷割りや街路等の復元がされている。大淀川の氾濫源であるが、中近世以前の遺物の表探はない。

調査

この調査は町有地を利用し公共施設を建設するという長期計画に基づき遺構の保存状況と性格を確認することを目的とする。この調査地区は、昨年度の調査を第1次調査で第3トレンチまでとしているため第2次調査とトレンチも第4トレンチからとした。今回の調査は武家屋敷群にあたり、3m×10mのトレンチを3箇所設定した。層序は、最近の整地層を除いて、灰褐色粘土（包含層）下、小粒石混じりの明黄橙色土、淡褐色粘土、黄褐色粘土となる。



第11図 高岡麓遺跡調査位置図

第4トレンチ：灰褐色粘土まで下げたところで遺構を検出する。東側で擾乱を受けているが西側で径20cm前後のピットを検出した。遺物は国産陶磁器、土師器である。

第5トレンチ：灰褐色粘土、小粒石混じりの明黄橙色土面でピット・土礫・溝などの遺構を検出する。遺物は国産陶磁器、土師器である。

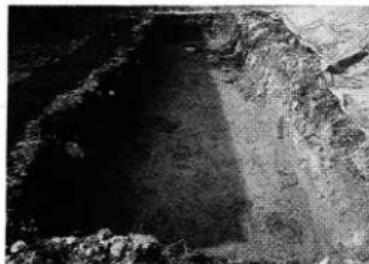
第6トレンチ：灰褐色粘土、黄褐色粘土面でピット等の遺構を検出する。遺物は黄褐色粘土層内で土師器が出土した。



図版11 高岡麓から天ヶ城跡をみる



図版12 高岡麓遺跡重機掘削後



図版13 高岡麓遺跡第4トレンチ遺構検出



図版14 高岡麓遺跡第5トレンチ

高岡町内遺跡発掘調査報告書

平成6年3月

編集・発行

宮崎県高岡町教育委員会

宮崎県東諸県郡高岡町大字内山

印刷 富士マイクロ株式会社